

奉る靈験あらたに在ます也、また修驗者の舟と同じやうなる舟に乗て、女の商人餅を賣に来る、此女御國ぶしとて唄を諷ふ古風にしておもしろし、此最上川は名所にして、古歌多しといへども、事繁ければこゝにもらし畢、

雄物川

野代川

九頭龍川

庄川中國

〔東遊雜記〕<sup>八</sup>御物川は雄勝郡由利郡より流れ出て、何方にも御物川と稱す。

〔東遊雜記〕<sup>十</sup>野代といふ所は湊にて、千四百軒の地にて、大槻のよき町なり、野代川流れ川上は奥州南部より流れ出て、十九里の間は川舟往來して、此邊の產物皆々此湊に出て、北國、九州、および大坂の廻船も數々入津して、交易の業あるゆへに、商人多く、豪家も見へ、倡家もありて、言語も外より見れば大ひに勝れたり、羽州の内にては、最上川第一にて、第二は此所を流る、野代川なり、

〔倭訓釋〕<sup>久前編</sup> <sup>八</sup>くづる○中 くづれ川は越前にあり、九頭龍川と書り、

〔運歩色葉集〕<sup>久前編</sup> 九頭龍

〔朝倉始末記〕<sup>二</sup>加賀能登越中ノ凶賊亂入越前事

去程三惡政ハ生惡氣、惡氣ハ生災異云ヘバ、諸國ノ惡徒不移時日馳集加賀ノ一揆ニ合掌シテ、都合其勢三十萬、永正三年七月十七日、越前國ヘ打越ヘ、九頭龍河ノ北、在々所々ヲ放火シテ、兵庫長崎邊ノ村々里々ニゾ陣ヲ取ル、洪波塹ニ振トキハ、川ニ閑ナル鱗ナク、驚懸野ヲ拂フトキハ、林ニ靜カル枝ナシトテ、國中ハ云ニ及バズ、近國隣郡ニ至ルマデ、騒ガヌ所ゾ無リケル、

〔加越能山川記〕<sup>越中</sup> 庄川

庄川は、礪波郡に在、庄川とは谷口に在る村名也、此内の水源は飛州高山の西の方より出る谷々多故、北陸第三の大川也、飛州にて東南より西山筋流れて、御領五ヶ山谷より流る、五ヶ山にて大谷東西二川也、東を梅川といふ、此川の水源は同所水無村より出て、下仙納原村少し下にて落合ふ、此川筋拾里程なり、飛州にて東神通川と庄川二川の水源とは、此間二里餘程在此庄川は飛州に